

# 学道一如

発行  
小樽双葉高校  
生徒会通信  
2023年7月12日  
第19号

## 課題に解決策を提案 自分たちにできることは

「総合的な探求の時間」では2年生から「体験型ドリムプロジェクト」を展開している。その成果を3年生が「ドリームゼミ」でまとめ、全校生徒に発表する機会を7月10日に設けた。6つのゼミが課題を示し、それに対する具体的な解決策を提案した。

## Dream Project Seminar 発表会

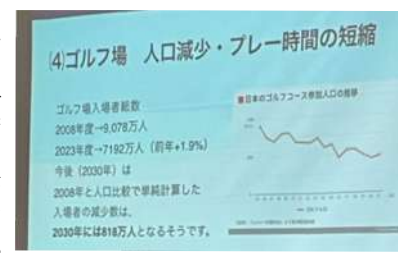
■スポーツ・アスリート  
「ゴルフ場の現状（過去から）未来、環境破壊」  
ゴルフ場の建設は環境に悪いという印象が

つきまとうが、農薬使用には一定の基準があり、森林についても一定の比率残す規則がある。また、ゴルフ場跡地をキャンプ地、ソーラーパネル用地に転用

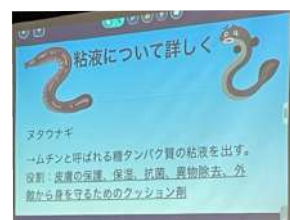
などの対策を示した。

### ■グローバル・カルチャー「飢餓をゼロに」

世界では10人に1人が飢餓状態にある。清潔な水の確保、食糧不足、病院に行けない、労働需要の減少という課題を提示し、啓蒙活動、ボランティア、フードバンクなどの解決策を示した。



している例もある。ゴルフ人口の減少について（上写真）も心配されるが、プレー時間の短縮



### ■サイエンス「海洋生物の粘液の応用」

ヌタワナギがムチンという粘液を出すこと（上写真）に注目し、水中接着剤、手術用接着剤への応用を考えた。

### ■ビジネス・マーケティング「外国人マナー問題」

特にゴミのポイ捨てに注目し、アンケータ式ゴミ箱の設置を提案した。これは消費者の意見を知り、ゴミの



### ■フードデザイン「新しい味覚を求めて、燻製とスイーツ」

コストをかけず、アレレギー対策をし、SDGsに配慮したスイーツを作ろうと試みた。先生方に試作品を食べてもらい、感想を聞いたが、スイーツに燻製は合わないとの結論に至った。（写真は燻製フルーツをトッピングしたタルト）

### ■医療・福祉「献血者を増やすには」

高齢化が進むにつれ、若者の献血車の数が減りつつある。血液は人工的に造ることができず、長期保存もできないことから、癌患者の治療のため常に新たな供給が求められる。献血のメリット、場所などを示し、献血に行くことを促した。

### 【講評】柴田健一教頭 行動を検証し新たな課題を

関心を持つ分野の課題を示し、行動を提起してもらった。次は行動を検証し、新たな課題を見つけないかというらせん状の流れを作っていくといい。

## 決勝で北照に惜敗 後輩に思いを託す

7月2日、第105回全国高等学校野球選手権記念大会南北海道大会小樽支部予選大会決勝が行われ、本校は北照と対戦し、1-6で敗れた。引退する金山准大主将に振り返ってもらった。



金山准大 主将 (3-4)

- 2回戦  
小樽双葉 3-1 小樽潮陵  
(投) 中屋- (捕) 松宮  
2塁打 中屋 (7回)  
前田 (7回)
- 準決勝  
小樽双葉 12-0 小樽桜陽  
5回コールド  
(投) 佐藤・高橋 (4回)  
石井 (5回) (捕) 松宮  
本塁打 金山 (1回)  
3塁打 増井 (3回)  
2塁打 神 (2回)  
松宮 (2回・3回)  
金山 (2回)
- 決勝  
小樽双葉 1-6 北照  
(投) 佐藤・中屋 (6回)  
(捕) 松宮

決勝の9回裏には最後まで諦めず、必死に点を取りに行く選手の姿があった。吹奏楽部をはじめ、大勢の関係者がスタンドで声をからして応援していた。金山主将は「初戦の潮陵戦は緊張感が高く、思うようにプレーできず、僅差での勝利となった。

準決勝の桜陽戦は初戦の反省を生かし、力を十分発揮できた。大量得点し、

大量得点し、

5回コールドゲームとなった。「決勝は互いに我慢比べとなった。最少失点では抑えられたが、打線がうまく機能しなかった。自分たちがこれまでやってきたことは発揮できたと思いますが、チームの徹底力や気迫の面で北照が一枚上だった」と語った。「3年生9名は2年生の力を借りて戦ってきた。1年生を含め、後輩たちは良い選手が揃っている。技術はもちろん大切だが、チームの雰囲気や結束力を重視して、良いチームを作ってほしい」と語った。